

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人上野猛の上告趣意のうち、憲法一四条、四四条違反をいう点は、公職選挙法二五二条一項の規定が憲法一四条、四四条に違反するものでないことは、当裁判所の判例（昭和二九年（あ）第四三九号同三〇年二月九日大法廷判決・刑集九卷二号二一七頁）とするところであつて、所論は理由がないことが明らかであり、その余は、量刑不当の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、同法四〇八条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

昭和五五年六月五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	中	村	治	朗
裁判官	団	藤	重	光
裁判官	藤	崎	萬	里
裁判官	本	山		亨
裁判官	谷	口	正	孝